

参考資料

主要展示品解説

1. 「大坂冬の陣図屏風」デジタル想定復元

凸版印刷 蔵

東京国立博物館所蔵の「大坂冬の陣図屏風」を、最新のデジタル技術を駆使して再現し、さらに手作業で金箔や金銀泥を施し、完成させたもの。

東京国立博物館所蔵の「大坂冬の陣図屏風」は、元来、徳川将軍家の御用絵師として活躍した木挽(こびき)町(ちょう)狩野家(かのうけ)に伝来したもので、明治19年(1886年)に同家十一代当主の狩野謙柄氏から帝室博物館(現在の東京国立博物館)に寄贈された。当初は未表装であったが、大正14年(1925年)に屏風に仕立てられた。もともと十扇分しかなかったため、付属の覚書二冊をばらして右隻第一扇と左隻第六扇に貼り付け、六曲一双とした。この東京国立博物館所蔵の「大坂冬の陣図屏風」は、江戸時代後期の模写本で、大坂冬の陣後あまり時を経ず制作されたと考えられる完成品の行方は不明である。

構図は北西から大坂城を眺めたもので、惣構堀を挟んで豊臣・徳川両軍が対峙する。五層の大天守は左隻第三扇上方に聳え、その右下の本丸御殿には豊臣秀頼と淀殿らしき人物が描かれる。左隻第四・五扇上方には豊臣方の木村重成・後藤又兵衛隊が徳川方の上杉景勝・佐竹義宜隊が激突した慶長19年11月26日の鴨野・今福合戦、右隻第五・六扇上方には12月4日の真田出丸の攻防戦、右隻第六扇から左隻第一扇の下方には豊臣方の塙団右衛門が徳川方の蜂須賀至鎮隊を急襲した12月17日の本町橋の夜討ちが描かれる。真田幸村(信繁)の築いた出丸の構造や徳川方の造った築(つき)山(やま)・仕(し)寄(より)道(みち)、また防弾用の竹束・楯・竹(たけ)矢(や)来(らい)など、大坂冬の陣の様子が具体的に知られるとともに、戦場に現れた兵士相手の酒屋・煙草屋・煮売屋も描き込むなど、合戦風俗資料としても興味深い内容を持っている。



「大坂冬の陣図屏風」デジタル想定復元

制作：凸版印刷株式会社監修：千田嘉博(奈良大学文学部教授)、東京藝術大学、徳川美術館、佐多芳彦(立正大学文学部教授)

協力：大阪城天守閣、京都市立芸術大学芸術資料館、東京国立博物館

※JSPS 科研費 JP17102001(立正大学)の助成を受けた研究成果を活用しています。

2. 「大坂冬の陣図屏風」(肉筆模写)

大阪城天守閣 蔵

東京国立博物館所蔵の「大坂冬の陣図屏風」を、大阪城研究家の故・武内勇吉氏が5年の歳月をかけて肉筆模写したもので、平成2年に完成し、大阪市の市制100周年を記念して大阪城天守閣に寄贈された。

武内氏は、東京国立博物館所蔵の「大坂冬の陣図屏風」の各扇の原寸大写真を透写して下絵とし、カラー写真をもとに徐々に仕上げてゆき、最後に原本と照合して補正を加えて完成させた。肉筆ならではの鮮明さと独特の画調がよく再現され、作品として高い評価を受けている。



「大坂冬の陣図屏風」(肉筆模写) (右隻)



「大坂冬の陣図屏風」(肉筆模写) (左隻)

3. 重要文化財 「大坂夏の陣図屏風」

大阪城天守閣 蔵

大坂夏の陣最後の決戦となった慶長 20 年(1615 年)5 月 7 日の模様を描いた屏風絵で、右隻には豊臣・徳川両軍の激突が、左隻には落城時の混乱や敗残兵・避難民の様子が生々しく描かれ、我が国の数ある合戦図屏風の中でも最高傑作との評価を受け、国の重要文化財に指定されている。

大坂夏の陣に徳川方として参戦した筑前福岡藩主黒田長政が戦勝記念に描かせたと伝え、同家に伝来したことから「黒田屏風」の別名でも呼ばれる。制作にあたった絵師として「八郎兵衛」(『黒田家重宝故実』)や「久左衛門」(『竹森家伝』)といった名前が伝えられるが、その作風から岩佐又兵衛(1578 年～1650 年)を想定する見解も出されている。

画面には 5071 人も的人物が描かれるが、そのうち、徳川方は徳川家康・秀忠をはじめ、黒田長政を含む 16 将、豊臣方は真田幸村(信繁)ら 5 将が特定できる。右第 1 扇中央やや下には前線から戻った使番(伝令)からの報告を受ける大御所徳川家康、同じ右隻第 1 扇の上部には豊臣方武将の首実検を行なう將軍徳川秀忠が描かれ、右隻第 3 扇中央には鹿角脇立兜を被って馬に乗り長柄の槍を振るって奮戦する徳川方の本多忠朝、右隻第 3・4 扇中央には茶臼山に陣取る赤備えの真田幸村隊が描かれる。真田幸村隊と激突するのは徳川家康の孫で、越前藩主の松平忠直隊。松平忠直隊はこの日大坂城一番乗りを果たし、徳川方随一の 3750 もの首を挙げた。真田幸村隊から四天王寺西門の石鳥居を挟んで上方には豊臣方の毛利勝永隊、真田幸村隊の後方には大野治長隊、さらに後方には豊臣秀頼本陣が描かれ、秀吉以来の金瓢の馬印が掲げられるが、そこに秀頼の姿はなかった。なお、右隻第 6 扇上方には 5 層の大坂城大天守が描かれるが、昭和 6 年に復興された現在の大阪城天守閣の外観は、これがもとになっている。



重要文化財 「大坂夏の陣図屏風」(右隻)



重要文化財 「大坂夏の陣図屏風」(左隻)

4. その他展示情報

夏の展示と同時期に、下記のとおり企画展示を開催します。

1. 名称 企画展示 秀吉 天下人への足どり ―資料と写真でたどる―
2. 会期 2020年7月22日(水)～10月8日(木)
3. 時間 9:00～17:00
※入館は閉館の30分前まで
4. 主催 大阪城天守閣
5. 会場 大阪城天守閣4階展示室
6. 主な展示品 「錦絵 清州城普請の図 歌川国芳画」
「革包伊予札菱綴二枚胴具足(伝 仙石秀久所用)」



「錦絵 清州城普請の図 歌川国芳画」



「革包伊予札菱綴二枚胴具足(伝 仙石秀久所用)」

以上